2023年度未踏 芝山PJ開発進捗報告(9月)

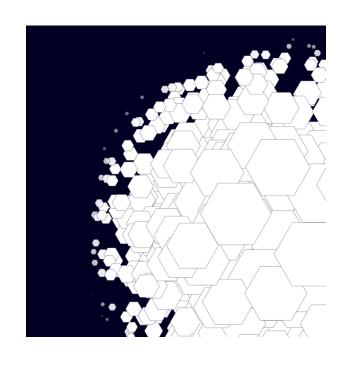
Pythonにトランスパイル可能な静的型付け プログラミング言語の開発

芝山駿介

自己紹介

芝山駿介

早稲田大学先進理工学部物理学科4年 大学では場の量子論、量子情報などを 勉強しています



背景

Pythonは人口に膾炙しているが、とても奇妙な言語

```
Python 3.11.0 (main, Jul 12 2023, 00:27:36) [Clang
Type "help", "copyright", "credits" or "license" for
>>> class C:
    x: int
... def __init__(self, x):
           self.x = x
>>> c = C(1)
>>> c == c # must be True
True
>>> C(1) == C(1) # !?
False
>>>
```

なぜこのような挙動になるか?

A. __eq_ を実装していないから

下のようにする必要があった

```
class C:
    x: int
    def __init__(self, x):
        self.x = x
    def __eq__(self, other):
        return self.x == other.x
```

でも、 ___eq__ を実装していないならエラーにしてほしい (願わくば、実行前に)

というか、Pythonに静的型システムが欲しい

理想

```
C = Class \{ .x = Int \}
c = C \cdot new \{ x = 1 \}
print! c == c
    the type of `==`::rhs (the 2nd argument) is
    mismatched
    expected: Eq
    but found: test:: Cels(E1941)
    : ::c(: test::C)
    問題の表示 (TF8) クイック フィックス... (X.)
```

でも、ただ新しい言語を作るだけではダメ

Pythonのコード資産がそのまま使えるような言語が欲しい

それと、Python代替を目指すならエコシステムも揃っていて欲しい(パッケージマネージャ, フォーマッタ, Language Server, etc.)

→ Pythonの公式エコシステムはあんまり出来も良くないので、後発の強みを活かして改善されているとなお良い

また、せっかく静的検査をやるのだからネイティブコードも出力したい

…と、いうことを実現する言語 Erg を作っています

これまでの進捗(6~8月)

Language Server

未踏期間前から基本的な機能は実装済み

- [x] Completion
- [x] Diagnostics
- [x] Hover
- [x] Go to definition
- [x] Find references
- [x] Renaming
- [x] Inlay hint
- [x] Semantic tokens
- [x] Code actions
- [x] Code lens

未踏期間中の主な進展はLanguage Serverの並列化

パッケージマネージャ

実用的なアプリケーションを作るにはパッケージマネージャが不可欠 パッケージマネージャはErg自身を用いて実装した

現在使用可能なコマンド:

- publish: 作成したパッケージを検証し、GitHub上で管理されるレジストリに登録
- build: コードをコンパイルして成果物をbuildディレクトリに置く
- clean: buildディレクトリをclean-upする
- help: ヘルプを表示する
- init: パッケージを初期化する
- run: アプリケーションパッケージを実行する
- install: (シェルスクリプトを使った擬似)実行可能ファイルを作って \$ERG_PATH/bin に置く
- metadata: パッケージのメタデータを表示

ネイティブコードバックエンド

ネイティブコードバックエンドは、Rustコードをターゲットとする方式で実装

$$Erg$$
スクリプト $\xrightarrow{Erg$ コンパイラ} $Rust$ コード $\xrightarrow{Rust$ コンパイラ バイナリ

ネイティブコードバックエンドは、構成的にはErg to RustトランスパイラとRustコンパイラ を呼び出す部分からなる

トランスパイラ

トランスパイラ(Galと命名)の方は、現在

- 関数呼び出し(print, assert)
- 変数・関数・メソッド定義
- コントロールフロー(if, for, while, match)
- 基本的な二項演算
- クラス定義
- import(Ergモジュールのみ)

を変換可能

コンパイル(トランスパイル)実行例

```
~/Documents/GitHub/gal git:(main) (0.064s)
cat test.er
id x = x
add x, y = x + y
world = "world"
print! "Hello, {}! ", id world
print! "1 + 2 = {} ", add 1, 2
~/Documents/GitHub/gal git:(main) (0.811s)
cargo run -- compile test.er
    Finished dev [unoptimized + debuginfo] target(s) in 0.06s
     Running `target/debug/gal compile test.er`
~/Documents/GitHub/gal git:(main) (0.292s)
./test
Hello, world!
1 + 2 = 3
```

Rustに変換するので当然ではあるが、fibonacci関数での簡易ベンチマークではPythonよりも 10倍以上高速に実行された

```
~/Documents/GitHub/gal git:(main) (0.063s)
cat test_fib.er
fib 0 = 0
fib 1 = 1
fib(n: Int): Nat = fib(n-1) + fib(n-2)
assert | fib(10) == 55
print! fib 35
~/Documents/GitHub/gal git:(main) (13.893s)
hyperfine "python test_fib.py"
Benchmark 1: python test_fib.py
 Time (mean \pm \sigma):
                        1.371 s \pm 0.005 s [User: 1.309 s, System: 0.011 s]
  Range (min ... max): 1.365 s ... 1.379 s
~/Documents/GitHub/gal git:(main) (0.541s)
time cargo run -- compile test_fib.er
   Finished dev [unoptimized + debuginfo] target(s) in 0.02s
    Running `target/debug/gal compile test_fib.er`
cargo run -- compile test_fib.er 0.20s user 0.07s system 55% cpu 0.479 total
~/Documents/GitHub/gal git:(main) (1.545s)
hyperfine "./test_fib"
Benchmark 1: ./test fib
 Time (mean \pm \sigma):
                        74.6 ms ± 21.3 ms
                                               [User: 69.4 ms, System: 0.6 ms]
  Range (min ... max): 69.4 ms ... 159.8 ms
```

これからはErgとの互換性を高めるためにバインディングライブラリやPython APIを模倣する Rustライブラリを作っていく

言語機能

主要なものとしては

- スライスの追加
- ユーザー定義再帰型の追加
- パターンマッチの機能強化

コンパイラ

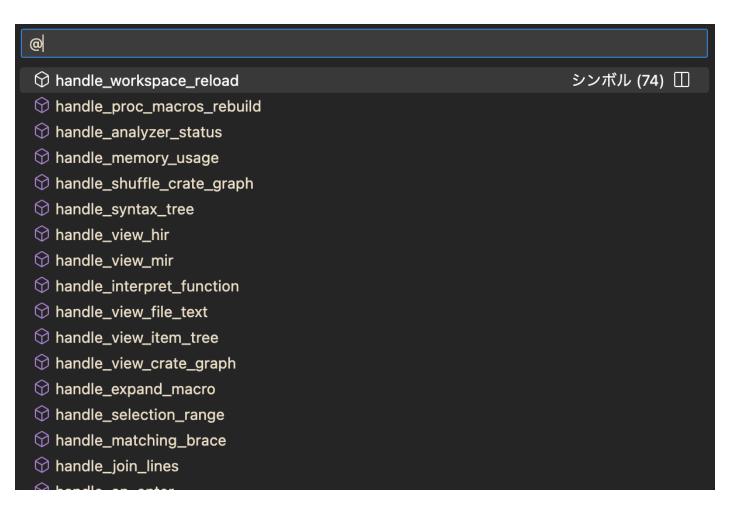
- 型システムのバグ修正
- コード生成器のバグ修正

9月の進捗

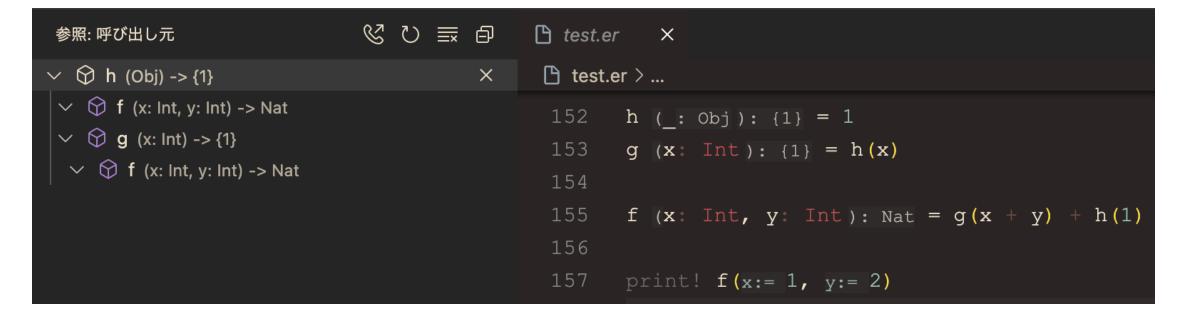
Language Server

Workspace diagnosticsを実装

プロジェクトを開くと自動的にパッケージ全体の検査をやってくれる機能 実用的にはかなり欲しかった機能なので、実装できて良かった Workspace symbolを実装 プロジェクト内でセマンティックにシンボルを検索できる機能



Call hierarchy機能を実装 関数の呼び出し階層を表示できる機能



Folding range機能を実装 importリストを折りたためるようになった • Language Serverのテスト基盤を開発・公開 サーバーと通信を行うダミークライアントを実装、これを用いてテストも実装 コンパイラ本体と分離できたので別リポジトリで公開



また未踏とは関係ありませんが、LSPに関する知見を本にまとめました 近日公開予定(Zenn/Leanpub)



フォーマッタ

- スタイルガイドの策定
- フォーマッタ本体の実装(実装中)インデントの処理がかなり面倒で、完成まではまだしばらくかかりそう

パッケージマネージャ

残念ながら目立った進展なし

言い訳: パッケージマネージャの実装を進めようとするたびコンパイラとLanguage Serverの

バグ及び機能不足が立ちはだかるため

ひと段落した感じはあるので、10月は実装を進められそう?

言語機能

- パターンマッチ機能の改善 ネストしたパターンに対応
- デコレータ(Pythonと同名の言語機能)の実装
- 内包表記(言語機能)の実装

```
y = match [1, 2]:
    [1, 2, 3] -> 6
     [x, 2] -> x
assert y == 1
a = match \{ x = 1 \}:
    { y; } > y + 100
    \{ x; y \} \rightarrow 200 + x + y
    { x; } -> x
assert a == 1
b = match \{ x = [1, 2]; \}:
    \{ y; \} \rightarrow y + 100
    \{ x; y; \} \rightarrow 200 + x + y
    \{ x = [1, y]; \} \rightarrow y
assert b == 2
c = match [[1, 2], [3, 4]]:
     [x, [3, 5]] \rightarrow x + 100
     [x, y, z] => 200 + x + y + z
    [[1, x], [3, y]] \rightarrow x + y
assert c == 6
```

コンパイラ

- CIの改善 CIはPython 3.11だけで行っていたが、3.7~3.11まで全てサポート (これのために3.7特有のバグとかを必死に直した)
- その他、バグ修正

Jobs

- test (windows-latest, 3.7)
- test (windows-latest, 3.8)
- test (windows-latest, 3.9)
- test (windows-latest, 3.10)
- test (windows-latest, 3.11.3)
- vert (ubuntu-latest, 3.7)
- test (ubuntu-latest, 3.8)
- vert (ubuntu-latest, 3.9)
- test (ubuntu-latest, 3.10)
- test (ubuntu-latest, 3.11.3)
- test (macos-latest, 3.7)
- test (macos-latest, 3.8)
- test (macos-latest, 3.9)
- test (macos-latest, 3.10)
- test (macos-latest, 3.11.3)
- build-check (windows-latest)
- build-check (ubuntu-latest)
- build-check (macos-latest)

問題

9月に予定した作業が(特に新規実装部分で)あまり進められなかった Language Serverは概ね完成したので、これからは新規実装を進められそう

今後の予定

- パッケージマネージャでは、依存関係解決器を実装し、ライブラリの依存関係を管理できるようにする
 - その他、公開に向けて必要な機能を実装する
 - 8合目会議までに一通り動かせるようにしたい
- ネイティブコードバックエンドでは、より多くのコードを変換できるよう機能強化を進めるほか、バインディング機構の実装を行う
 - パッケージマネージャをバイナリにコンパイルするのが目標
- フォーマッタの実装を進める
- コンパイラ本体では、パッケージマネージャの実装で必要になった機能やバグ修正等を 行う

進捗チャート

灰色が完了、青が進行中(2023/9/30現在)

